

## 第21回火山噴火予知連絡会議事録

日 時：昭和56年2月8日 14時35分 — 18時05分

場 所：大島町北の山公民館

出席者：永田、横山、高木、下鶴、行武、青木、久保寺、加茂、太田、北村（科技厅）、中川（国土庁）、  
飯田（文部省）、小野、春山、大島（水路部）、高橋、末広、渡辺、田（気象研）、河村

臨時委員：小坂（東工大）

オブザーバー：榎原、深沢（国土庁）、熊谷（防災センター）、唐沢、田沢、白井、稲葉、  
高橋、早川（大島測候所）

庶 務：清水、吉留、山本

1. 第20回連絡会議事録（案）は一部字句を訂正のうえ承認された。

### 2. 最近の火山活動

#### 2.1 御 岳 山

青木委員：火口状況等について

清水（気象庁）：地震回数推移

#### 総 合 検 討

永田会長：活動は沈静したが火口での噴出はなお強く、火山ガスの影響も無視できない。

中川委員代理：山小屋は火口に近いし、火山ガスの影響をうけるので泊められないと思う。

#### 御岳山の火山活動についての会長コメント

「御岳山の火山活動はその後の観測においてもさらに沈静化したものと考えられる。しかし噴気孔からの噴出活動は依然として行われているので、噴気孔周辺および噴出した火山ガスの風下に当る地域はなお警戒を要する。」

#### 2.2 桜 島

加茂委員：① 震源分布等について

② 第4回集中観測結果について

（特に緊急報告を要する現象は観測されなかった。）

清水（気象庁）：活動経過

加茂委員：活動見通しについて（捕獲岩を噴出しているため、マグマの供給がそう簡単に止まるとは思われない。）

永田会長：桜島の水準点を鹿児島市側のルートとつなげることについて

春山委員：近々、実施できると思う。

加茂委員：潮位では2 cmの誤差があり、渡海水準測量でも同程度である。

永田会長：2～3年に1回は水準をつなぐことが必要と思う。

### 2.3 樽前山

清水（気象庁）：活動経過

横山委員：震源分布、辺長変化等について（漸次、活動レベルが上がっているが、ただちに表面活動につながるとは考えていない。）

### 2.4 有珠山

清水（気象庁）：活動経過

横山委員：地震発生状況、地殻変動状況等について

（一般的には沈静化傾向は強まっているが、火山学上は活動が残っている。）

### 2.5 硫黄島

高橋委員：火山活動観測状況（地震、地盤傾斜等）

榊原（国土庁）：硫黄島総合調査の進め方について

小坂臨時委員：調査結果の概要

大島委員代理：航空磁気測量結果

総合検討：永田会長、横山、下鶴、小野委員、小坂臨時委員

### 硫黄島の火山活動についてのとりまとめ

「硫黄島は全島にわたり地熱地帯が分布し、過去には小爆発が発生した。また隆起が島全体に及んでいる。このため島には一般住民が居住するには適しないものと思われる。」

### 2.6 海底火山

大島委員代理：南硫黄島周辺海底火山の最近の火山活動等について

小坂臨時委員：福神海山の変色水の化学分析結果

### 2.7 浅間山

清水（気象庁）：活動経過

下鶴委員：活動状況

### 2.8 霧島山

清水（気象庁）：活動経過

下鶴委員：活動状況（活動やや活発化したが、常時監視レベルで要注意の段階である。）

加茂委員：本年1月に九州南部周辺で発生した大きい地震の判断について

### 2.9 草津白根山

清水（気象庁）：地震発生状況

小坂臨時委員：湯釜湖底高温化について

### 2.10 阿蘇山

清水（気象庁）：活動状況

久保寺委員：おだやかである。

### 2.11 那須岳

清水（気象庁）：有感地震発生について

2.12 恐山, 新潟焼山, 恵山, アトサヌプリ, 秋田駒ヶ岳, 鶴見岳, 諏訪之瀬島

清水(気象庁) : 機動観測実施状況について

2.13 焼 岳

青木委員 : 焼岳周辺の微小地震について

2.14 火山地質図の進行状況(小野委員)

2.15 大島, 三宅島の上下変動(春山委員)

2.16 伊豆大島

下鶴委員 : 三原山火口底の温度変化等について

行武委員 : 全磁力時間変化について

3. 永田会長の辞任について

永田会長から次の申し出があった。

第1次噴火予知計画の終了(昭和53年度末)をもって会長を辞任したいと思ったが慰留され、1年ごとにくぎり、2か年会長に留任した。しかし諸種の事情により昭和56年3月末で会長を辞任したいのでご了承をお願いする。

これに伴い次回連絡会(56年5月開催)で新会長選出までのつなぎの措置として、下鶴委員に本会計年度内は会長代行をお願いする。

なお末広委員から永田会長の永年の功績をたたえ、今後ともよろしく御指導を願う旨の挨拶があった。

4. 連絡会庶務報告

5. 次回連絡会開催期日

昭和56年5月, 春季日本火山学会開催日の前後を予定

6. 気象庁におけるA, B, C級火山の取扱いについて……清水(気象庁)

[ 2月10日 11:00~11:35 記者会見 極地研究所 ]